

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2674000308		
法人名	アサヒケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	京都府京都市西京区中山町2-41		
自己評価作成日	令和3年3月18日	評価結果市町村受理日	令和3年6月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2674000308-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2674000308-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和3年4月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人の持っている力を大切に常にご利用者さん、ご家族さんの思いに耳を傾ける様に努め、安全で、生き生きと暮らして頂けるように心掛けています。食事作り、掃除、草むき、食器洗い、洗濯物干しやたたみ、お茶配り、おはし並べ、布巾たたみなど何気ない日常を出来る事をして頂く事でやりがいを持って張りのある気持ちが持続出来るようにサポートしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームはコロナ禍においてもドライブにて桜見物に出かけたり、庭での満開の桜の花見等、外出気分を楽しんでもらっています。庭のみかんやかりん等を収穫し食べたり、日々の食事においても近隣から届いた野菜を使用し、利用者の好みの物や行事食にも配慮しながら、料理の好きな利用者野菜の下拵えや調理等に携わってもらい食事を作り職員も同じ食事を摂っています。ちらし寿司やピザ等のイベント食の他、ぜんざいや牛乳寒、フレンチトースト等の手作りおやつ、正月にはホームでついた餅を使用する等利用者が楽しめるような工夫をしています。職員の関係性は良好で長年勤務する職員も多く会議や日々の業務の中で活発に意見を話し合ったり、階段リフト使用時の見守りの強化等改善に向けて取り組むなど働きやすい職場づくりに努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送りの前に、事業所理念を職員で唱和する事で、理念を共有して実践につなげている	法人グループホーム全体の理念を事務所に掲示し申し送り時に唱和すると共に新任研修時に説明をしています。ホーム全体が明るい雰囲気を保つために職員、利用者共笑顔をやさしい支援ができるよう会議の中で話し合い振り返りを行っています。また、月毎に目標を作成しており月末に見直しを行い次の目標に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の掃除等に参加し交流していたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の為に参加出来ず 散髪は地域の理髪店に来てもらっている。	例年は地域の行事に参加したり、ボランティアの来訪や子どもたちの祭りへの参加等ありました。コロナ禍においては庭の散歩時に出会った方と挨拶を交わしたり、地域の方から多くの野菜をもらうこともあります。職員が近隣のコンビニやスーパーで食材等を購入したり、地域の農家の軒先販売所等も利用しています。また、地域の理髪店の訪問や感染症が落ち着いていた頃には地域住民である利用者家族の食事作りの協力もあり、地域との関わりが継続するよう努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームのイベントに、近所のグループホームの職員と利用者さんに来所してもらい、運営推進会議に参加させてもらい、良い所をホームに持ち帰っていたが、今年度はコロナ感染症の為に実施出来ず。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議をひらいているが、新型コロナウイルス感染症の為にひらけずにいます。	会議は家族や民生委員、自治会役員、福祉委員、児童委員、地域の他事業所職員等多くの参加を得て隔月に行い利用者や職員の状況、行事、事故報告等行い意見交換をしていました。コロナ禍においては議事録を送付することで開催としています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録を持って行ったり、地域ケア会議にも参加していたが、新型コロナウイルス感染症の為に実施出来ず。	運営推進会議の議事録や事故報告、書類の手続き等で区役所の窓口を訪れたり、わからないこと等は電話で聞いています。感染症等のアンケート依頼に協力したり、コロナ禍における生活様式等についての注意喚起が届いた場合は職員に周知しています。また行政からマスクや消毒液が郵送にて届いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1度の一斉会議で話をし、毎月してはいけない事を目標をたてて実施し、身体拘束をする事無くケアに取り組んでいる。	例年は年1回法人主催の研修を全職員が受けており、コロナ禍においては研修資料を配布し全職員がレポートを提出することで周知しています。法人内で身体拘束適正委員会を立ち上げ3か月に1回以上会議を行い結果は都度職員に報告しています。外に出たい希望があれば庭先の椅子に座り気分転換を図り拘束感のないよう支援しています。不適切な対応があった場合は管理者や主任が都度注意し会議で話し合う事もあります。	

グループホームさくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームでの研修の他に年に1度、身体拘束委員会による研修をして、全員が共有出来るように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度を学ぶ機会があまりないが、新型コロナウイルス感染症が落ち着けば、学ぶ機会を持ち、支援につなげたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な時間をとり、契約書の読み合わせを行い、疑問点が無いかを確認し、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時等に意見を聞くようにし、運営に反映させている。	家族には月1回手紙にて日々の様子を伝え、電話でも随時報告をしています。意見や要望は面会時や電話、職員が家族宅を訪れた時等に聞いています。コロナ禍においては要望はほとんどなく、意見があれば職員間で検討し速やかに対応していく予定です。利用者からは食べたい物や外に出たい等の要望があり、出前や日々の献立に組み込んだり、庭先で外気浴をする等要望をサービスに反映するよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームでの月に一度の一斉会議で職員の意見を聞くようにしている。個人的にも聞くようにし、意見や提案を反映させている。	職員からの意見や提案は毎月の会議や申し送り時、日々の業務中、年2回の定期面談や随時の面談で聞いています。会議に参加できない職員は事前に口頭で意見を聞くようにしており、進行役を主任が、書記を管理者が担当する等意見を出しやすい工夫をしています。職員からの意見を受けて冷蔵庫や洗濯機等の物品購入に繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事評価に伴う自己評価と面談を行い、向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各階層に分かれた研修を定期的に行い、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		

グループホームさくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームのイベントに、近所のグループホームの職員と利用者さんに来所してもらい、運営推進会議に参加させてもらい、良い所をホームに持ち帰っていたが、今年度はコロナ感染症の為実施出来ず。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人、家族から以前の生活習慣や困りごとを施設職員、居宅ケアマネから情報を聞きセンター方式を作成し本人理解に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時、契約時や電話で困りごとや不安等が無いように話を聞き、真摯な態度で関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様やご本人に事前に面談しお話を伺い、必要な支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事と出来なくなったことをカンファレンスで話し合い、残存機能を引き出せるように支援を心掛けている。また、新人職員にも都度説明し、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の際にはご家族様にも一緒に参加して頂き、普段の様子を見てもらい、共に本人を支えていく関係を築いているが、今年度はコロナ感染症の為実施出来ず。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所以前からのかかりつけの病院にかかれるように、御家族様と職員で対応し、関係が途切れないように、支援に努めている。	入居前のアセスメント時に本人や家族から馴染みの人や場所について聞き職員間で共有しています。以前は家族と墓参りや自宅等に出かけていました。コロナ禍においては外出自粛のため馴染みの場所等に出かけることはなく、テレビ等で懐かしい映像が流れてきた時にはそれについて話をし、感染症収束後には出かけたいたいと考えています。	

グループホームさくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者さん同志を席を近くしたり、職員と一緒に間に入る事で利用者さん同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、御家族様にボランティアで食事作りをしてもらい、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には本人、家族、CMなどから生活歴や意向を確認している。入居後10日間程、集中的に行動の様子、会話を記録して、さらに以降の把握に努めている。また把握が困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前の面談で自宅等本人の暮らしている場所へ出向き本人や家族から生活歴や特技、趣味、好きなもの等を聞き以前のケアマネジャーや事業所からの情報も併せて基本情報シートに記載し思いの把握に努めています。入居後は10日間位は特に利用者の会話の内容や様子、行動を詳細に記載し、把握困難な思いは家族から聞いたり、表情等からも汲み取りカンファレンスにて検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活の様子を家族やCMなどから聞いたり、本人との会話の中で好きな物事を聞き出すようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の変化などは、記録に残すと共に、職員間で共有する為、朝夕の申し送り時に報告し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や、家族の意向に基づき、介護計画を作成、3ヵ月毎にモニタリング、カンファレンスを行い、見直しを行っている。また6ヵ月毎に再アセスメントも行い、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族の意向、アセスメント等を基に作成した介護計画は3ヵ月毎にカンファレンスで職員の意見を聞きながらモニタリング、評価を行っています。見直しは6ヵ月毎に行い再アセスメントとサービス担当者会議を行い、事前に家族の意向を聞き、往診時に聞いた医師や看護師の意見も必要に応じて反映し、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画にそった個人記録を毎日記入している。また、本人の言葉、様子を書き出して、思いや状況により気付くようにしている。		

グループホームさくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に利用者の変化に注意し3か月毎のカンファレンスに職員間で話し合い、状況に合ったサービスになるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の理容室から散髪に来てもらったり、近くの農家に野菜を買いに行ったり、もらったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度、往診を受けている、また週に2回、訪問歯科の往診を受けている、希望により週に1～3回の訪問マッサージを受けている方もいる。	入居時にかかりつけ医の継続について家族に説明しており、全利用者が協力医に変更しています。2週間に1回の往診と週1回の訪問看護師の来訪があり健康管理を受けています。体調不良時は24時間連絡可能である訪問看護師から医師に連絡し往診や受診の指示を受けています。専門医への受診は職員が対応しており受診結果は家族に伝え共有しています。週2回の訪問歯科や希望により訪問マッサージを受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、看護師が出勤し、個々の情報を伝えたり、逆に看護師から指示を受けている。緊急時には受診に付き添っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行インの地域連携室と情報のやり取りをしたり、医師や看護師と連絡を取り、家族の意向を確認し、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りがホームで可能な事を伝え、重度化した場合、家族の意向を再確認し、往診医や看護師、職員間でカンファレンスを行い、ターミナルの介護計画を作成し対応している。	入居時に看取り指針について説明し家族の意向を聞き、食事や水分が摂れなくなる等重度化した場合は再度意向を確認し医師や家族、看護師、職員で話し合い方針を決めています。夜間の付き添い等家族の協力も得ながら取り組み、支援後は振り返りを行い、年1回の法人主催の研修を受け学んでいます。看取り支援をする中で医師や看護師から都度アドバイスをもらっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時には、管理者、看護職の指示を受けて、提携病院に搬送している。転倒などの事故発生時には全職員が応急処置が出来るようにしている。		

グループホームさくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施し、避難方法は全職員が把握できている。また年に1度消防署にもきてもらい連携がとれるようにしている。	例年は年2回昼夜想定で通報、初期消火、利用者も参加し避難誘導等の訓練を行い、内1回は消防署の立ち合いを得ています。コロナ禍においても1回は消防署立ち合いの下昼想定で同様の内容で行い、ホーム独自では夜間想定で行っています。訓練時は運営推進会議の参加者に見学してもらったこともあり、缶詰や飲料水、カセットコンロ、懐中電灯等を備蓄をしています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権についての研修を行い、一人一人の人格を尊重し、プライバシーを損ねない対応をおこなっている。	コロナ禍においては人権についての資料を配布し、全職員がレポートを提出し理解を深めています。利用者個々の人格を尊重し失礼な対応にならないよう心がけ、名前は苗字で呼び丁寧語を基本として声のトーンや馴れ馴れしくならないよう留意しています。希望があれば同性介助にも配慮し不適切な言葉かけがあった場合は都度、管理者や主任が注意をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各利用者の状態を把握し、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位に考えるようにし、利用者の希望に沿った支援が出来るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近くの理容師の方に来て頂き、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんに何が食べたいかを聞き食事をつくったり、イベントなどではいつもと違う食事を提供するなど工夫している。また利用者さんが出来る事はしてもらるように支援している。	食事は三食共利用者の好みや旬、暦の上での行事食等に配慮し、野菜の下拵えや調理等可能な利用者と一緒に作っており、別の席で職員も同じものを一緒に食べています。ファーストフードやピザ、天丼等を取ったりちらし寿司や焼きそば等のイベント食や牛乳寒、ぜんざい、フレンチトースト等の手作りおやつも楽しんでいます。近隣の方から届いた野菜が食卓に上がることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者さんの普段食べられる量を考え、水分摂取が足りていない場合は、違うものを提供するなど工夫している。		

グループホームさくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や食事の後に口腔ケアを行い。週に1度は歯科往診で診てもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し、個人ごとの排泄パターンを把握している。また、紙パンツから布パンツへの試みもしている。	排泄表を見ながら一人ひとりのパターンを把握しサイン等見逃さず声かけや誘導を行うことで入居時に比べて失敗が減ったり、紙パンツやパットの使用量が減少している利用者もいます。退院後は入院前の状態に戻るよう話し合いながら支援をしています。日中は全利用者がトイレで排泄しており、夜間はポータブルトイレを使用したりパッドのみ交換する利用者もいます。排泄用品の種類や支援方法を会議や随時検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取表を作成し、必要な水分を摂って頂けるようにしている。また食物繊維のある食事にも気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	きまった入浴日を作らず、いつでも入浴が楽しめるように支援している。	入浴は少なくとも週2回以上日中に支援しており、希望があれば増やすことも可能です。入浴剤を選んでもらったりゆず湯等の季節湯を行い、職員と会話をしながらゆっくりと入浴する方もおり、入浴後はジュース等の水分補給を行っています。拒否のある場合は日時を変更したり声あけを工夫するなど無理のないよう入ってもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状態や状況を把握し、眠気の強い時は日中でも居室へ誘導し休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用や目的を職員皆が福利の説明書を読み確認し理解するように意識している。往診時の説明や薬剤師からの指導も聞いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者と家族から今までの生活歴やされていたことを会話の中から聞き取り、ノンアルコールビールを提供するなど支援をしている。		

グループホームさくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症流行の為、外出は出来ていないが、おちついたら化移出をしていきたいと思っている。	例年は近隣の散歩や買い物、地域行事等への参加の他、季節毎の外出や松尾大社等に出かけていました。コロナ禍においてはドライブで桜の花見に出かけたりホーム前の庭で散歩や外気浴をしています。来客があった場合は門を開けに出たり、ゴミ出し等をする利用者もおり、できるだけ外気に触れる機会を作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望によって購入したい物があれば、職員と一緒に買い物に行くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば、職員が電話をかけ、利用者に代わる事もある。また手紙を書いてもらう事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに壁に利用者さんと一緒に作った物などを展示したりしている。	雛祭りや七夕、クリスマス等の他、季節毎の飾り物を作成し壁に貼ったり、職員が活けた生花をテレビ台の上に飾るなど季節を感じてもらっています。日々掃除や換気、消毒を行い可能な利用者には毎日モップかけをしてもらい、空調により温湿度等調節し利用者の体感にも留意しながら過ごしやすい共有空間を作っています。随所に一人や数人がけのソファを置き、好きな場所でゆったりと過ごせるよう工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにあるソファに座ってもらったり、利用者さん同士お喋りをしたり、玄関先で外気浴をしてもらったりと工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り、利用者の希望に沿って、なじみの物を部屋に置いて毎日を心地よく過ごしてもらえる様に工夫している。	入居時に馴染みの物を持参してもらうよう伝え、タンスやテレビ、手鏡等持参し本人や家族と相談しながら配置をしています。家族の写真や本人のアルバムを傍に置いたり観葉植物に水をやり育てている利用者もおり、その人らしい居室となっています。日々、職員が掃除や換気、消毒を行っており、希望があれば布団を敷いて休むことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員と一緒に出来る事は職員と一緒にし、1人で出来る事は見守りですて頂いている。		